

# 「今後特定看護師(仮称)の実施が可能」 20%超 降順リスト(医師回答)

- 「今後特定看護師(仮称)の実施が可能」と答えた割合が一番高かったのは、日医調査では、「患者・家族・医療従事者教育」であるが、28%に過ぎなかった。ただし、これについては「看護職員(一般)が可能」とする割合の方が高い。
- 一方、研究班の結果では、「特定看護師(仮称)が可能」が4割を超えるものも多く、日医調査とは対照的である。
- 2位以降についても、ほとんどが「医師が実施すべき」であるが、医師より「看護職員(一般)が可能」が大幅に上回るのは「日々の病状、経過の補足説明(時間をかけた説明)」である。
- 「看護職員(一般)が可能」より「特定看護師(仮称)が可能」が大きく上回るのは「腹部超音波の実施」「人工呼吸器モードの設定・変更の判断・実施」「心臓超音波検査の実施」であるが、これらについても「医師が実施すべき」との回答が6割を超える。

※ 緑色の項目は「看護職員が可能」より「特定看護師(仮称)が可能」の方が割合が高い項目

順位	患者数	医療処置項目	日医調査			研究班調査		
			特定看護師(仮称)が可能	看護職員が可能	医師がすべき	特定看護師(仮称)が可能	看護職員(一般)が可能	医師がすべき
1	196	患者・家族・医療従事者教育	28.0%	37.2%	31.4%	40.4%	44.6%	15.0%
2	57	気管カニューレの選択・交換	25.9%	20.6%	50.2%	46.9%	19.1%	34.0%
3	59	挿管チューブの位置調節(深さの調整)	25.7%	21.7%	49.7%	48.6%	33.0%	23.3%
4	78	体表面創の抜糸・抜鉤	24.7%	23.7%	48.9%	44.5%	22.9%	32.6%
5	61	経口・経鼻挿管チューブの抜管	24.3%	27.3%	45.5%	40.6%	18.4%	41.1%
6	18	腹部超音波検査の実施	23.3%	6.7%	66.7%	45.2%	5.9%	49.0%
7	188	日々の病状、経過の補足説明(時間をかけた説明)	22.8%	47.8%	26.8%	33.3%	49.7%	17.0%
8	199	家族療法・カウンセリングの依頼	22.6%	32.8%	41.2%	42.6%	41.1%	16.2%
9	16	経腹部的膀胱超音波検査(残尿測定目的)の実施	22.2%	17.5%	56.4%	41.0%	27.4%	31.6%
10	187	訪問看護の必要性の判断、依頼	22.2%	34.8%	40.4%	38.9%	47.3%	13.8%
11	62	人工呼吸器モードの設定・変更の判断・実施	22.0%	8.6%	66.2%	51.3%	11.4%	37.3%
12	126	手術時の臓器や手術器械の把持及び保持(手術の第一・第二助手)	22.0%	30.3%	43.5%	42.8%	21.3%	35.9%
13	136	心肺停止患者への電気的除細動実施	21.4%	35.2%	40.4%	37.7%	43.3%	19.0%
14	2	直接動脈穿刺による採血	21.4%	13.2%	63.1%	46.2%	17.0%	36.8%
15	197	栄養士への食事指導依頼(既存の指示内容で)	21.4%	41.3%	34.7%	37.9%	48.1%	14.0%
16	107	小児のミルクの種類・量・濃度の決定	21.2%	20.1%	52.5%	42.8%	23.7%	34.0%
17	127	手術時の臓器や手術器械の把持及び保持(気管切開等の小手術助手)	21.0%	37.3%	37.2%	44.2%	30.7%	25.1%
18	189	リハビリテーション(嚥下、呼吸、運動機能アップ等)の必要性の判断、依頼	21.0%	30.2%	46.5%	42.8%	35.3%	21.9%
19	3	動脈ラインの抜去・圧迫止血	20.8%	34.4%	41.9%	28.3%	59.3%	12.3%
20	69	褥瘡の壊死組織のデブリードマン	20.8%	15.0%	61.5%	40.7%	12.5%	46.7%
21	82	中心静脈カテーテル抜去	20.7%	24.7%	51.6%	39.8%	26.8%	34.0%
22	21	心臓超音波検査の実施	20.7%	5.0%	70.7%	44.8%	4.6%	50.6%
23	128	手術の補足説明:「術者による患者とのリスク共有も含む説明」を補足する時間をかけた説明	20.6%	20.9%	54.7%	44.3%	20.5%	35.2%
24	121	麻酔の補足説明:「麻酔医による患者とのリスク共有も含む説明」を補足する時間をかけた説明	20.4%	13.8%	61.8%	45.9%	14.3%	39.8%
25	110	胃ろう、腸ろうのチューブ抜去	20.3%	23.9%	52.4%	40.9%	21.3%	37.8%
26	198	他の介護サービスの実施可・不可の判断(リハビリ、血圧・体温など)	20.3%	33.5%	43.4%	33.1%	42.6%	24.3%
27	137	血液透析・CHDFの操作、管理	20.2%	11.6%	68.8%	48.8%	14.1%	37.1%
28	113	膀胱ろうカテーテルの交換	20.1%	20.3%	55.6%	42.0%	17.9%	40.2%
29	135	心肺停止患者への気道確保、マスク換気	20.1%	38.5%	38.7%	29.3%	55.1%	15.6%

「今後特定看護師(仮称)の実施が可能」 20%超 降順リスト(看護職員回答)

- 「今後特定看護師(仮称)の実施が可能」と答えた割合で一番高かったのは、医師と同様「患者・家族・医療従事者教育」であるが、30.7%に過ぎなかった。ただし、これについては「看護職員(一般)が可能」とする割合の方が高い。
- 一方、研究班の結果では、医師の回答ほどではないが、やはり「特定看護師(仮称)が可能」の割合が高く、5割を超えるものもある。
- 看護職員の回答でも、ほとんどが「医師が実施すべき」であるが、医師より「看護職員(一般)が可能」が大幅に上回るのは「日々の病状、経過の補足説明(時間をかけた説明)」「栄養士への食事指導依頼(既存の指示内容で)」「訪問看護の必要性の判断、依頼」である。
- 「看護職員(一般)」より「特定看護師(仮称)が可能」が大きく上回るのは「人工呼吸器装着中の患者のウイニングスケジュール作成と実施」「腹部超音波検査の実施」等であるが、これらについても「医師が実施すべき」との回答が6割を超える。

※ 緑色の項目は「看護職員が可能」より「特定看護師(仮称)が可能」の方が割合が高い項目

No.	患者数	医療処置項目	日医調査			研究班調査		
			特定看護師(仮称)が可能	看護職員が可能	医師がすべき	特定看護師(仮称)が可能	看護職員一般が可能	医師がすべき
1	196	患者・家族・医療従事者教育	30.7%	37.6%	27.5%	34.2%	57.8%	7.9%
2	64	人工呼吸器装着中の患者のウイニングスケジュール作成と実施	29.6%	6.4%	60.1%	54.4%	6.9%	38.7%
3	69	褥瘡の壊死組織のデブリードマン	28.0%	15.0%	58.0%	52.7%	9.3%	38.0%
4	57	気管カニューレの選択・交換	26.9%	13.8%	56.0%	42.3%	13.5%	44.2%
5	61	経口・経鼻挿管チューブの抜管	26.6%	21.8%	48.4%	42.7%	11.8%	45.5%
6	201	認知・行動療法の実施・評価	26.5%	15.0%	54.4%	46.8%	15.7%	37.5%
7	199	家族療法・カウンセリングの依頼	25.8%	29.9%	40.1%	38.4%	43.1%	18.5%
8	189	リハビリテーション(嚥下、呼吸、運動機能アップ等)の必要性の判断、依頼	25.7%	33.5%	38.0%	39.4%	45.2%	15.4%
9	187	訪問看護の必要性の判断、依頼	25.5%	40.3%	31.3%	24.2%	69.6%	6.2%
10	78	体表面創の抜糸・抜釘	25.4%	14.2%	57.4%	41.2%	11.8%	47.0%
11	59	挿管チューブの位置調節(深さの調整)	25.4%	12.5%	58.6%	44.5%	15.0%	40.4%
12	137	血液透析・CHDFの操作、管理	24.7%	12.8%	57.8%	38.8%	15.3%	45.9%
13	200	認知・行動療法の依頼	24.6%	22.2%	49.3%	42.3%	27.8%	29.9%
14	128	手術の補足説明:「術者による患者とのリスク共有も含む説明」を補足する時間をかけた説明	24.1%	15.0%	56.8%	26.8%	13.0%	60.2%
15	188	日々の病状、経過の補足説明(時間をかけた説明)	23.5%	44.6%	28.9%	25.0%	56.8%	18.1%
16	4	トリアージのための検体検査の実施の決定	23.4%	8.7%	63.9%	47.0%	11.9%	41.1%
17	62	人工呼吸器モードの設定・変更の判断・実施	22.8%	6.6%	66.9%	48.6%	8.8%	42.6%
18	71	巻爪処置(ニッパー、ワイヤーを用いた処置)	22.6%	25.0%	49.3%	40.7%	22.9%	36.5%
19	198	他の介護サービスの実施可・不可の判断(リハビリ、血圧・体温など)	22.4%	39.5%	34.7%	32.7%	53.7%	13.7%
20	18	腹部超音波検査の実施	22.2%	2.2%	72.6%	32.2%	2.8%	65.0%
21	60	経口・経鼻挿管の実施	22.2%	10.6%	64.1%	35.3%	4.1%	60.2%
22	72	肝臓・膵臓処置(コーンカッター等用いた処置)	22.1%	23.8%	50.5%	36.7%	17.0%	46.3%
23	136	心肺停止患者への電気的除細動実施	21.6%	28.7%	46.6%	35.6%	34.9%	29.6%
24	185	痛みの強さや副作用症状に応じた非オピオイド・鎮痛補助薬の選択と投与量・用法調整:WHO方式がん疼痛治療法等	21.5%	7.4%	67.7%	54.6%	9.9%	35.5%
25	56	酸素投与の開始、中止、投与量の調整の判断	21.3%	29.2%	46.8%	32.8%	50.7%	16.4%
26	3	動脈ラインの抜去・圧迫止血	21.3%	25.9%	49.6%	26.7%	46.2%	27.1%
27	183	自己血糖測定開始の決定	21.0%	26.0%	50.2%	37.6%	37.4%	25.0%
28	191	理学療法士・健康運動指導士への運動指導依頼	20.9%	20.0%	55.8%	38.7%	36.0%	25.3%
29	16	経腹部的膀胱超音波検査(残尿測定目的)の実施	20.8%	11.3%	64.4%	30.5%	23.4%	46.1%
30	197	栄養士への食事指導依頼(既存の指示内容で)	20.5%	43.8%	32.5%	29.8%	56.9%	13.2%
31	106	治療食(経腸栄養含む)内容の決定・変更	20.5%	20.1%	56.3%	45.4%	23.2%	31.4%
32	121	麻酔の補足説明:「麻酔医による患者とのリスク共有も含む説明」を補足する時間をかけた説明	20.4%	8.6%	66.9%	25.5%	11.9%	62.7%
33	107	小児のミルクの種類・量・濃度の決定	20.3%	14.7%	58.7%	41.7%	18.4%	40.0%
34	184	痛みの強さや副作用症状に応じたオピオイドの投与量・用法調整、想定されたオピオイドローテーションの実施時期決定:WHO方式がん疼痛治療法等	20.1%	6.4%	70.0%	53.5%	8.9%	37.6%